2025年3月期 第2四半期　決算説明会資料

2024年11月29日

東京計器株式会社　（証券コード 7721）

発表のポイント

1

2025年3月期　第2四半期

前年同期比で売上高は増収、営業損失は大幅に縮小。

売上高	20,582百万円	前年同期比	+1,382百万円
営業利益	▲105百万円	前年同期比	+294百万円

2

2025年3月期　通期見通し

期初に公表した業績予想から上方修正し、営業利益は過去最高の見通し。

売上高	58,300百万円	期初予想比	1,000百万円増
営業利益	4,100百万円	期初予想比	540百万円増
営業利益率	7.0%	期初予想比	0.8%ポイント増

3

受注残高

1Qに続き、受注残高は防衛･通信機器事業を中心に過去最高を更新。

2025年3月期 1Q	50,055 百万円	2025年3月期 2Q	54,750 百万円

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

資料の内容

1. 2025年3月期 第2四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し
3. トピックス

＜ご参考資料＞
- 業績推移
- 事業紹介

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

売上高・損益

単位：百万円	2024年 3月期 2Q	2025年 3月期 2Q	増減額	増減率
売上高	19,200	20,582	+1,382	+7.2%
営業利益	▲399	▲105	+294	–
経常利益	▲259	28	+287	–
親会社株主に帰属する中間純利益	▲237	63	+300	–

為替レート（円/USD）	140.00	153.98

■ 売上高は、船舶港湾機器事業ならびに防衛・通信機器事業の増収が貢献し、全体として増収。

■ 好調を継続する船舶港湾機器事業が貢献し、営業損失は大幅に縮小。

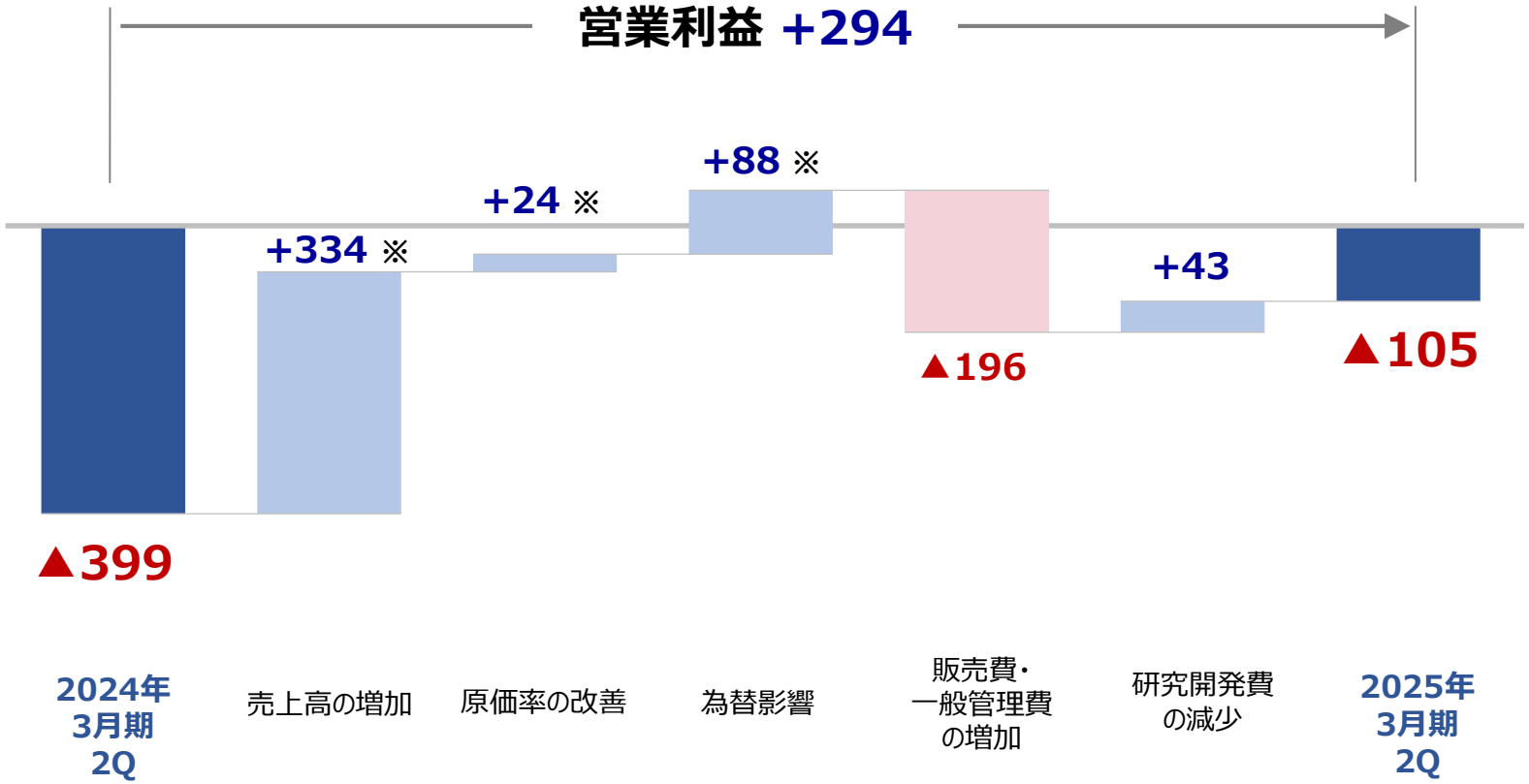
四半期毎推移	2024年3月期		2025年3月期	
	1Q	2Q	1Q	2Q
売上高	9,417	9,783	8,693	11,889
営業利益	▲483	84	▲479	374

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

営業利益増減

単位：百万円

※推計値



■ 売上高の増加
販管費における人件費、旅費交通費の増加分を船舶港湾機器事業と防衛・通信機器事業の売上高増加分でカバー。

■ 為替影響
前年同期140.00円/USD に対し、153.98円/USDで円安に推移。

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

セグメント別売上高・損益

単位：百万円		2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	増減額	増減率
船舶港湾機器	売上高	5,407	5,940	+533	+9.9%
	営業利益	571	776	+205	+36.0%
油空圧機器	売上高	5,567	5,352	▲214	▲3.9%
	営業利益	▲36	27	+63	–
流体機器	売上高	1,512	1,663	+152	+10.0%
	営業利益	▲124	▲130	▲7	–
防衛・通信機器	売上高	5,364	6,239	+875	+16.3%
	営業利益	▲727	▲738	▲11	–
その他	売上高	1,350	1,386	+36	+2.7%
	営業利益	▲37	▲16	+21	–
合計	**売上高**	**19,200**	**20,582**	**+1,382**	**+7.2%**
	営業利益	**▲399**	**▲105**	**+294**	**–**

（セグメントの売上高、営業利益は調整前）

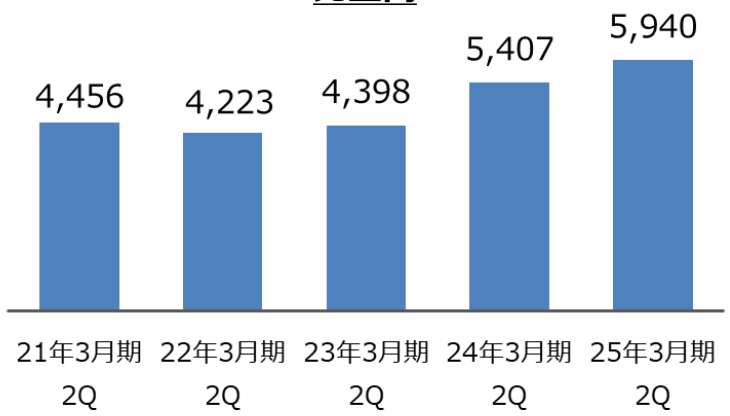
©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

セグメント別売上高・損益

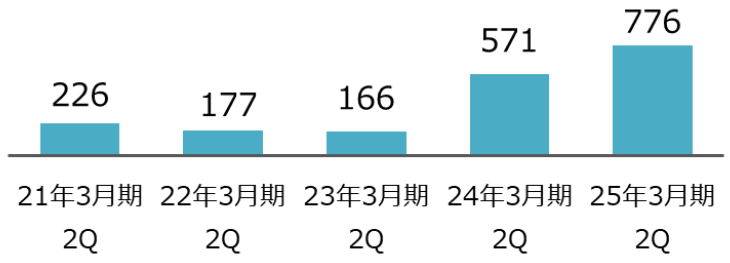
船舶港湾機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益

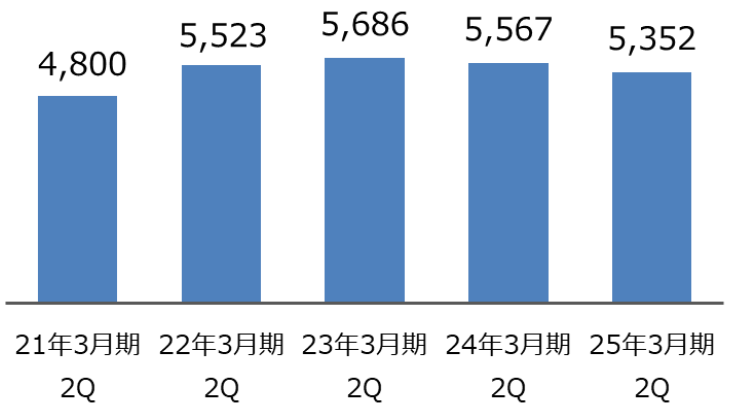


- 商船市場及び保守サービスが好調に推移したことに加え、海外市場が堅調に推移したこと、及び為替が円安基調であったことから前年同期比で増収。
- 売上高の増加や円安効果により、前年同期比で大幅な増益。

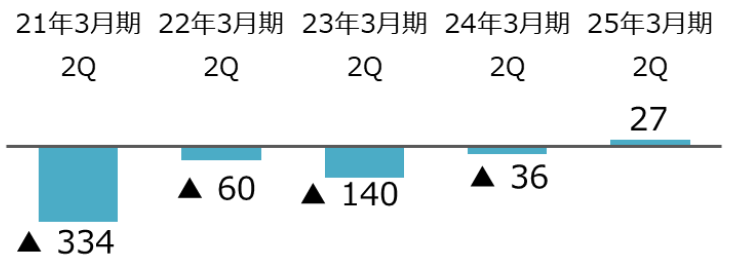
油空圧機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益



- 海外市場が順調に推移したものの、プラスチック加工機械市場、工作機械市場、建設機械市場が低調に推移し、前年同期比で減収。
- 販売価格の適正化による利益確保の取り組みに加え、油圧応用装置等の納入増加等による製品構成の変化により原価率が改善したこと等から、黒字転換。

（セグメントの売上高、営業利益は調整前）

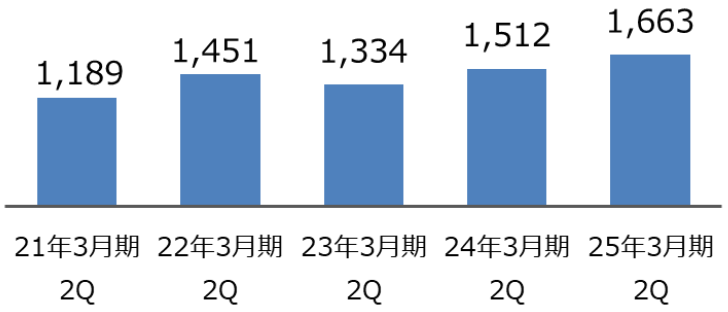
©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

セグメント別売上高・損益

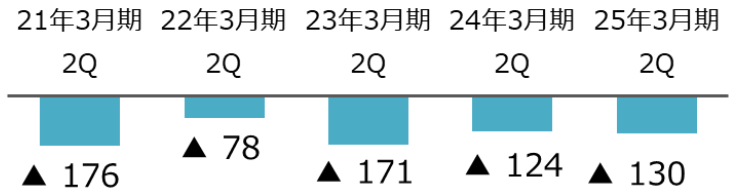
流体機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益

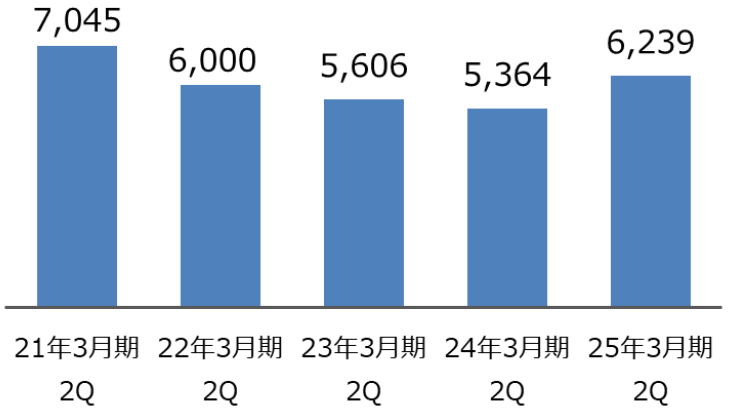


- ■ 消火設備市場の立体駐車場案件が好調に推移したこと、及び官需市場が堅調に推移したことから、前年同期比で増収。
- ■ 売上高は増加したものの、製品構成の変化により原価率が上昇したため、営業損失は前年同期並み。
- ■ 計測機器事業の特性上、販売が第4四半期に集中するため、第2四半期は営業損失となる傾向。

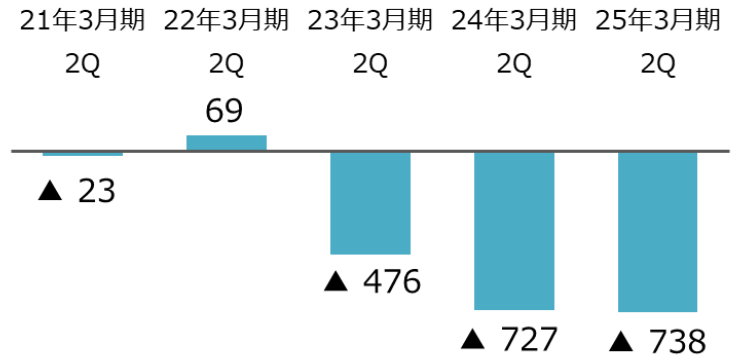
防衛・通信機器事業

単位：百万円

売上高



営業利益



- ■ 通信機器事業は低調に推移したものの、防衛事業において防衛予算の増加を背景に航空機用レーダー警戒装置や航空機用部品等が順調に推移したことから、前年同期比で増収。
- ■ 製品構成の変化による原価率上昇、及び通信機器事業の減収の影響により、営業損失は前年同期並み。
- ■ 防衛事業の特性上、販売が第4四半期に集中するため、第2四半期は営業損失となる傾向。

（セグメントの売上高、営業利益は調整前）

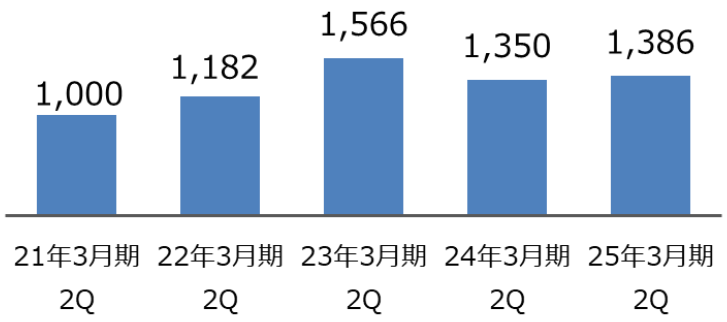
©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

セグメント別売上高・損益

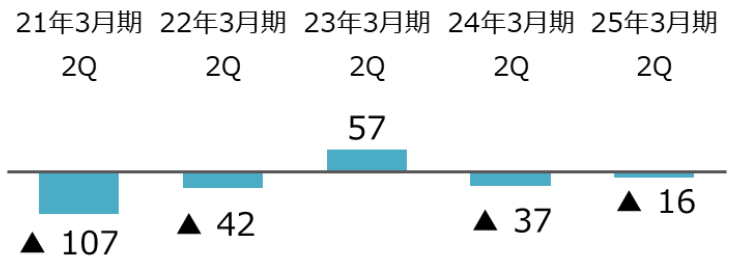
その他

単位：百万円

売上高



営業利益



- 鉄道機器事業は低調に推移したものの、検査機器事業は堅調に推移したことから、前年同期比で増収。
- 検査機器事業での販売価格の適正化等により、営業損失は縮小。

（セグメントの売上高、営業利益は調整前）

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

受注の状況

単位:百万円	受注高 2024年3月期2Q	受注高 2025年3月期2Q	受注高 増減額	受注高 増減率	受注残高 2024年3月期2Q	受注残高 2025年3月期2Q	受注残高 増減額	受注残高 増減率	概況
船舶港湾機器	5,292	6,670	+1,378	+26.0%	4,050	5,146	+1,096	+27.1%	海外市場の新造船向けや保守サービスの需要が好調に推移し、受注高・受注残高ともに増加。
油空圧機器	5,823	5,958	+135	+2.3%	3,695	4,004	+309	+8.4%	工作機械市場が低調に推移したものの、海外市場は好調であったため、受注高は前期並み。受注残高は客先の先行手配の影響で増加。
流体機器	2,515	2,803	+288	+11.4%	2,596	2,660	+64	+2.5%	消火設備市場が好調に推移したため受注高は増加。受注残高は上期に大型案件の前倒しなどにより前期並み。
防衛・通信機器	11,693	13,421	+1,728	+14.8%	28,598	40,833	+12,234	+42.8%	防衛予算の増加を背景に、第2四半期の受注高、受注残高ともに過去最高値を更新。
その他	2,265	1,738	▲527	▲23.3%	2,410	2,106	▲303	▲12.6%	検査機器市場の需要が低調に推移したこと、鉄道機器事業は大型案件が昨年に比べ少ない他、探傷車受注を第4四半期に予定していることにより、受注高、受注残高ともに減少。
合　計	**27,589**	**30,590**	**+3,001**	**+10.9%**	**41,349**	**54,750**	**+13,401**	**+32.4%**	**受注残高は過去最高を更新。**

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

貸借対照表

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期2Q	増減
資産の部			
流動資産	50,863	53,077	+2,214
固定資産	16,115	16,658	+543
資産合計	**66,978**	**69,734**	**+2,756**
負債の部			
流動負債	21,781	22,226	+445
固定負債	7,828	10,821	+2,993
負債合計	**29,609**	**33,047**	**+3,438**
純資産の部			
株主資本	32,901	32,439	▲462
その他の包括利益累計額	3,948	3,763	▲184
純資産合計	**37,369**	**36,687**	**▲682**
負債純資産合計	**66,978**	**69,734**	**+2,756**

■ 流動資産
前年度売上分の回収が進み、売上債権は4,676百万円減少。
防衛事業の受注増に伴う仕入の増加により棚卸資産が5,630百万円、仕入先への前渡金の支払の増加等により、その他が424百万円増加。

■ 固定資産
成長投資、老朽化設備の更新等により有形固定資産が593百万円増加。

■ 負債の部
大幅な受注増に伴う資金需要に対応するため4,500百万円の借入を実施し、借入金が3,930百万円増加。

■ 自己資本比率は51.9%。
引き続き財務健全性を維持。

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

資料の内容

1．2025年3月期 第2四半期　決算概要
2．2025年3月期　通期見通し
3．トピックス

＜ご参考資料＞
- 業績推移
- 事業紹介

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

外部環境リスクの状況

	発生事象	対象事業	対応	影響度
材料価格上昇	• 国内人件費増加による材料費への影響。 • 電子部品等の値上がりによる材料費への影響。 • 世界的インフレによる仕入れ価格への影響。	✓ 全事業	• 顧客と販売価格の適正化交渉を継続。 • 調達コストの低減。	高
	• 客先予算の圧迫による契約案件の先延ばし。	✓ 流体	• 契約案件のモニタリングを強化し、他案件での挽回。	中
為替	• 為替変動が不透明。	✓ 船舶港湾（+） ✓ 油空圧（－） ※円安に振れた場合	• 計画の140円/USDを下期145円/USDに見直し。 • 為替感応度：1円円安変動　営業利益約+6百万円 • 購入部品の値上りに警戒。	中
中国経済	• 経済減速による販売への影響。 • 米中対立による輸出入規制等の影響。	✓ 船舶港湾 ✓ 油空圧	• 必要に応じて、先行手配や代替品への切り替えを行う予定。 • 高付加価値製品の拡販。 • 他地域での拡販。	中

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

2025年3月期 業績予想

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率	期初予想(5月10日) 予想	増減額	増減率
売上高	47,166	58,300	+11,134	+23.6%	57,300	+1,000	+1.7%
営業利益	2,768	4,100	+1,332	+48.1%	3,560	+540	+15.2%
経常利益	2,990	4,280	+1,290	+43.1%	3,780	+500	+13.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,277	3,090	+813	+35.7%	2,850	+240	+8.4%
売上高営業利益率	5.9%	7.0%	+1.2%pt		6.2%	+0.8%pt	

■ 上期業績の上振れ、下期の見直しを反映し、2024年5月10日に公表した業績予想を上方修正。営業利益については過去最高を見込む。

為替レート及び為替感応度

通貨	為替レート 2024年3月期 実績	為替レート 2025年３月期 上期 実績	為替レート 2025年３月期 下期 予想	感応度(下期) 基準	感応度(下期) 営業利益
USD	144.32円	153.98円	145.00円	１円円安になった場合	+6

■ 期初設定レート (対USD): 140円
■ 下期設定レート (対USD): 145円

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

セグメント別業績予想

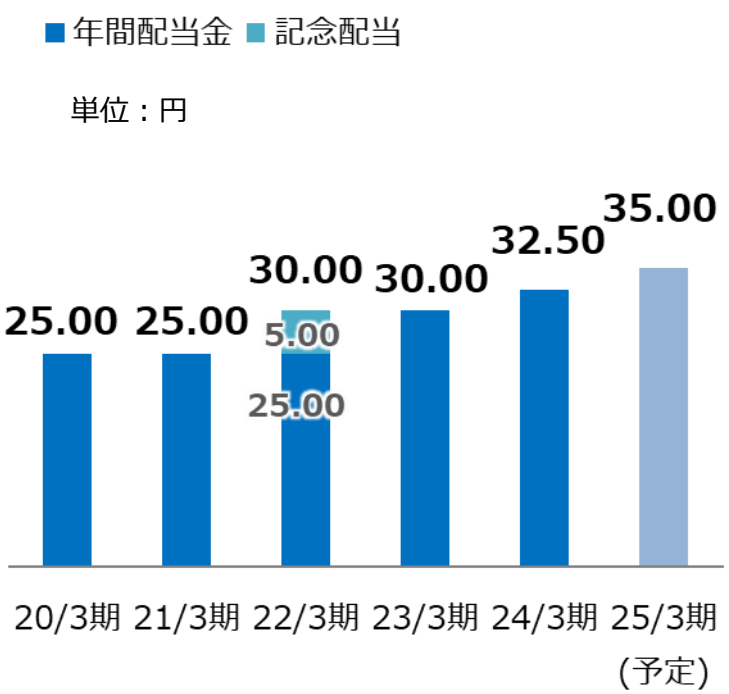
単位：百万円		2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率	期初予想（5月10日） 予想	期初予想（5月10日） 増減額	期初予想（5月10日） 増減率	見通し
船舶港湾	売上高	11,016	12,500	+1,484	+13.5%	11,400	+1,100	+9.6%	■ 新造船需要や保守サービスが引き続き堅調に推移する見込み。 ■ 円安の継続がプラス影響。
	営業利益	1,006	1,500	+494	+49.1%	810	+690	+85.2%	
油空圧	売上高	11,675	11,500	▲175	▲1.5%	11,500	0	–	■ プラスチック加工機械市場及び工作機械市場は需要回復を期待。 ■ 建設機械市場は、特装車の需要回復が見込めるものの、上期の減少分をカバーするに至らない見込み。 ■ 海外市場での製品構成変化で、原価率が上昇し利益は減少。
	営業利益	273	200	▲73	▲26.8%	360	▲160	▲44.4%	
流体	売上高	4,772	4,900	+128	+2.7%	4,900	0	–	■ 官需市場は、工期の長期化により、次年度への繰り越しが発生。 ■ 消火設備市場は、新設工事が好調だが、容器弁点検需要のピークアウトの見込み。
	営業利益	733	520	▲213	▲29.0%	610	▲90	▲14.8%	
防衛・通信	売上高	16,185	25,000	+8,815	+54.5%	25,100	▲100	▲0.4%	■ 防衛事業は、防衛予算増加を背景に防衛機器の受注が引き続き好調に推移する見込み。売上は計画どおり四半期毎に増加し、例年以上に第４四半期に偏重。 ■ 予定した設備投資や人材獲得を着実に進め、過去最高の受注残高を売上につなげていく。
	営業利益	362	1,350	+988	+273.3%	1,350	0	–	
その他	売上高	3,517	4,400	+883	+25.1%	4,400	0	–	■ 検査機器事業は、設備の老朽化更新に期待。 ■ 鉄道機器事業は、計画どおり主力の超音波レール探傷車を第4四半期に販売予定。
	営業利益	502	620	+118	+23.6%	540	+80	+14.8%	
合計	**売上高**	**47,166**	**58,300**	**+11,134**	**+23.6%**	**57,300**	**+1,000**	**+1.7%**	■ **売上高、営業利益とも上方修正。** **営業利益は過去最高を見込む。**
	営業利益	**2,768**	**4,100**	**+1,332**	**+48.1%**	**3,560**	**+540**	**+15.2%**	

（セグメントの売上高、営業利益は調整前）

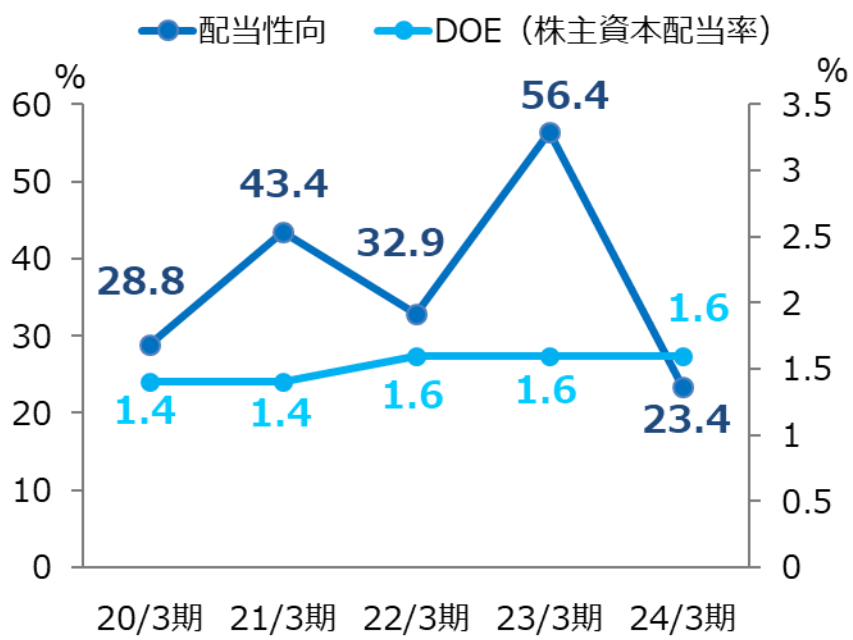
©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

株主還元

配当金の推移



配当性向とDOEの推移



配当基本方針

- 「東京計器ビジョン2030」の実現による企業価値向上に向け、成長投資を最優先としつつ、財務基盤とのバランスを考慮しながら、最適資本構成を意識した最適な株主還元施策を実施する。
- 毎期の配当については、過去の配当実績も勘案し、安定的かつ継続的な株主還元に努める。

配当金

当期　35.00円

※2000年度以降の過去最高を2期連続更新

株主優待

- 対象となる株主様の保有株式数に応じてポイントを贈呈。
- ポイントを株主様限定の特設ウェブサイト「東京計器プレミアム優待倶楽部」において、お好みの商品と交換。
- 詳細は株主様限定ウェブサイトでご確認ください。

https://tokyokeiki.premium-yutaiclub.jp/

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

質疑応答

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

東京計器の防衛事業で担当する主要な防衛製品についてご紹介

- 防衛事業では、陸海空自衛隊が運用する航空機、艦艇、車両の搭載品、地上のレーダー設備向けなどに製品を納入しています。
- 事業内容を大きく区別すると、「製品の開発・製造」、「維持・修理」となります。
- 航空機や艦艇などは長期の運用となるため、製品納入後も交換部品を含む修理作業、機能改善を含めた維持作業を継続的に行っています。また、製品の良否を試験する試験装置を開発・製造・販売しています。

搭載区分	当社担当製品	機能	搭載/使用例
航空機	**レーダー警戒装置/逆探装置** F-15用 	相手のレーダー波を受信・分析・識別して、パイロットに警告を出す装置	 F-15  F-2  UH-60  SH-60K  UH-2 他
	姿勢方位基準装置/慣性センサ OH-1用 	機体の姿勢等を計測する装置	 F-15  US-2  OH-1
	対気諸元計算器	機体の速度や高度を計測する装置	 F-15  F-2  T-4 (ブルーインパルス機含む)
艦艇	**慣性航法装置** リングレーザージャイロ 	船体の姿勢等を高精度に計測・計算し、自船の位置を特定する装置	 もがみ型護衛艦 他  おやしお型潜水艦 他 写真出典： 陸上自衛隊Webサイト： https://www.mod.go.jp/gsdf/equipment/index.html 海上自衛隊Webサイト： https://www.mod.go.jp/msdf/equipment/ 航空自衛隊Webサイト： https://www.mod.go.jp/asdf/equipment/index.html
	対勢作図装置/戦術状況表示装置	電子海図上で作戦を立て、状況を表示する装置	
	航海信号連接盤	関連機器との信号処理装置	
車両	**操作パネル**	乗員の操作用パネル	 10式戦車  90式戦車  16式機動戦闘車
地上のレーダー設備	**各種構成品**	レーダー波を生成する装置等	サイトレーダー
試験装置	**点検・試験装置**	製品の良否を判定する装置	当社の製品以外にも対応して納入。F-15戦闘機に関しては総合試験器の修理を担当。

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved

「防衛力の抜本的強化」における東京計器の取り組み

- 当社防衛事業の主力製品である各種航空機・艦船向け機器は、「防衛力の抜本的強化」に示された7つの重視分野のうち以下、青色の分野に該当。
- 2023年度から受注が急増している修理や保守需要への対応のほか、量産事業や将来に向けた新製品の開発・提案に注力。

「防衛力整備計画」より抜粋					当社の取組
7つの重視分野			5年間の総事業費	2027年度までの5年間の目標	
1	スタンド・オフ防衛能力		約5兆円	■ スタンド・オフ・ミサイルを実践的に運用する能力を獲得	■ 試験装置
2	統合防空ミサイル防衛能力		約3兆円	■ 極超音速兵器に対処する能力を強化 ■ 小型無人機(UAV)に対処する能力を強化	■ 艦艇用機器 ■ 試験装置
3	無人アセット防衛能力		約1兆円	■ 無人機(UAV)の活用を拡大し、実践的に運用する能力を強化	■ 電磁波領域用機器
4	領域横断作戦能力	宇宙	約1兆円	■ 宇宙領域把握(SDA)能力、サイバーセキュリティ能力、**電磁波能力等を強化** ■ **領域横断作戦の基本となる陸・海・空の領域の能力を強化**	■ **航空機用レーダー警戒装置等** ■ **艦艇用機器**
		サイバー	約1兆円		
		車両・艦船・航空機等	約6兆円		
5	指揮統制・情報関連機能		約1兆円	■ ネットワークの抗たん性を強化しつつ、人工知能(AI)等を活用した意思決定を迅速化 ■ 認知領域の対応も含め、戦略・戦術の両面で情報を取得・分析する能力を強化	■ 電磁波領域用機器
6	機動展開能力・国民保護		約2兆円	■ **自衛隊の輸送アセットの強化**、PFI船舶の活用等により、輸送・補給能力を強化（部隊展開・国民保護）	■ **航空機用レーダー警戒装置等**
7	持続性・強靭性	弾薬・誘導弾	約2兆円	■ 弾薬・誘導弾の数量を増加 ■ **整備中以外の装備品が最大限可動する体制を確保** ■ 有事に備え、主要な防衛施設を強靭化 ■ 保管に必要な火薬庫等を確保	■ **陸・海・空向け既存機器の維持整備**
		装備品の維持整備費・可動確保	約9兆円		
		施設の強靭化	約4兆円		

©TOKYO KEIKI INC. All Rights Reserved